

第 34 回「知的障がい者等に対する金融教育支援員セミナー」開催

平成 30 年 4 月 15 日（日）、ゆうちょ財団主催の「第 34 回 知的障がい者等に対する金融教育支援員セミナー」が、札幌市の「道民活動振興センター かでる 2・7」で開催されました。

今回の講座は、「親も子も不安なく暮らすためにライフプランを考えよう」をテーマに、ファイナンシャルプランナーで、障がいのある人とご家族のライフプランを考える会会長の石川智氏が講師を務められました。

障がいのある人のライフプランは、子が自立するかどうか不透明なことが多く、親子の世帯が長く暮らすことになる可能性が高いことが特徴です。それにより、子の自立と親の終活とが同時に課題となり、子の生活と親の生活が分かれなことで、いわゆる「老障介護」の状態になるケースもあります。

また、障がいのある子の親や支援者の不安は「親がいつまで、どれくらい経済的支援をしたらいいのか」「障がいのある子が何歳まで就業したらいいのか」「仮に将来、本人が暮らせるくらいの貯蓄になりそうにない場合、どのような準備をしたらいいのか」などがあります。要するに、分からないから不安があるわけで、この不安を解消するためには具体的な数字を出して対策を立てる必要があります。

講師が示したキャッシュフロー表は、収入と支出の額を算出し、どの時点でいくらのお金が必要なのかがシミュレーションできるようになっています。例えば、障がいのある人が現在 20 歳で、毎月の不足額が 1 万円であれば、30 年後は 360 万円のお金が必要となりますが、具体的な必要金額が算出できることで、この不足額を毎月の支出を工夫する、親が支援をする等の対策を立てやすくなります。このシミュレーション表については、参加者から「非常に参考になった」という意見を多くいただきました。

最後に、講師は「子のライフプランが実現できても、それが親の犠牲の上に成り立つのは間違い」「まずは親の老後資金を準備する、それから子への支援を考える」ことを強調しました。

障がいのある子を持つ講師ならではの、具体的事例を多く紹介しながらの話は大変説得力があり、参加者にも大好評でした。



次回の金融教育支援員セミナーは平成 30 年 6 月 23 日（土）に宮崎市で開催します。